

2016年度国際交流基金事業 アポイントメント・プログラム Husaini 教授招請報告

期間： 2016年7月17日～7月30日

講演会： 第1回：7月19日（火）16:20～17:20

生田キャンパス第二校舎A館A304室

題目：Finite Element Analysis On The Fracture Toughness Of Rubber - Modified Polymer

参加者：12名

第2回：7月20日（水）14:40～15:40

生田キャンパス中央校舎0410教室

題目：Mechanical Properties And Fracture Behavior Of Aluminum Alloy A6061-T6

参加者：20名

概要： Husaini 氏はインドネシアの Banda Aceh にある Syiah Kuala University（シヤクアラ大学）工学部機械工学科の教授である。氏は1998年に東京工業大学で工学博士を取得し、2003年から2005年まで同学部副学部長、2005年から2009年まで学部長、2012年から2013年までアチェ州の交通通信情報省の長官を歴任している。招聘者とは東京工業大学時代の友人であり、2004年のインド洋大地震の大津波で壊滅的な被害を受けた時に一時音信不通となったが、その後無事であることを確認し、現在まで交友が続いている。

第1回の講演はゴム改質高分子材料の破壊靱性に関する有限要素解析についてである。主に学内研究者・大学院生をターゲットにした専門性の高い講演内容であり、高分子材料にナノサイズのゴム粒子を分散させることによって靱性が強化されるメカニズムを有限要素解析によって明らかにしている。

第2回の講演はA6061-T6アルミニウム合金の機械的特性と破壊挙動についてである。アルミニウム合金は軽量化のために航空機から自動車まで輸送機器を中心に構造部材として幅広く用いられている。そのため、従来のモードⅠ破壊からモードⅡさらに混合モードの破壊についても検討が必要となっている。本研究は、複雑な応力負荷状態の破壊挙動を実験的に明らかにしたものである。なお、本講演は主に学部生をターゲットにしていたため、冒頭はシヤクアラ大学および大学のあるバンダアチェ等の紹介もいただいている。

滞在中に理工学部の研究室を案内し、研究に関して活発な討論が行

われた。また、材料強度研究室に所属する学部及び大学院生との懇親会も実施し懇親を深めた。最後に本機会を与えていただいた国際交流基金事業に感謝します。

